

平成28年度

第2回総合教育会議会議録

とき 平成28年7月12日

品川区

平成28年度第2回品川区総合教育会議

日時	平成28年7月12日(火) 開会：午後4時00分 閉会：午後5時10分	
場所	品川区役所 第二庁舎4階 災害対策本部室	
出席者	区長	濱野 健
	教育委員会委員長	菅谷 正美
	同 委員長職務代理者	鈴木 敏夫
	同 委員	市川 信之助
	同 委員	富尾 則子
	同 教育長	中島 豊
出席理事者	総務部長	田村 信二
	総務課長	久保田 善行
	教育委員会事務局教育次長	本城 善之
	同 庶務課長	品川 義輝
	同 学校計画担当課長	篠田 英夫
	同 学務課長	有馬 勝
	同 指導課長	熊谷 恵子
	同 教育総合支援センター長	村尾 勝利
	同 品川図書館長	木村 浩一
傍聴人数	0名	

その他 品川区総合教育会議設置要綱第5条に基づき、個人の秘密を保つため必要があると認められるため、会議の一部を非公開、同様に同6条に基づき議事録の一部を非公開とした。

次第

1. 開 会
2. あいさつ 品川区長
3. 出席者紹介
4. 議 題 議事進行：区長
 - (1) 品川区総合教育会議の運営について
 - ①資料の公開について
 - (2) 教育委員会からの報告・協議事項について
 - ①品川区立学校生徒の事故について
 - ②品川コミュニティ・スクールについて
 - (3) その他
 - ①品川区制70周年記念事業について
 - ②次回の開催予定について
5. 閉 会

平成28年度第2回品川区総合教育会議

平成28年7月12日

○総務部長

それでは、定刻になりましたので、平成28年度第2回品川区総合教育会議を始めさせていただきます。

本日は傍聴はいらっしゃらないようです。

それでは、まず、開会に当たりまして、濱野品川区長よりご挨拶申し上げます。よろしく願いいたします。

○濱野区長

こんにちは。今も話題ですけれども、大変な暑さであります。ご苦労さまでございます。

今日は第2回目ということで、総合教育会議、開催させていただきますが、今日の主な話題といたしますか、テーマはコミュニティ・スクールに関することとございます。

ご案内のように、学校の先生というのは、ずっとその学校にいらっしゃるわけではありませんで、品川区に滞在が6年ぐらいですか。そうすると、例えば、2校回るとすれば3年ぐらいたし、1校だとしても6年ということで、学校を場所として防災訓練を行います。地域の一斉防災訓練、学校でやるわけですので、いろいろと、どこに何があるなんて話になると、一番よく知っているのは生徒で、学校の先生に聞いても、「さあ」と言うので、「子供に聞いたほうが早いよ」なんていう、それが現実ですし、そういう現実がある中で、やっぱり学校の運営といたしますか、学校をしっかりと支えていただくには地域の方の力が必要だという発想で、このコミュニティ・スクールが設けられているのだらうと思います。

そういう意味で、どうやって地域と連携していくかというのがこれからの大きな課題になってくると思いますけれども、そういった意味で、今日、皆様方からご意見を賜って、今後の運営の参考にさせていただければありがたいと思っておりますので、何とぞよろしくお願いをいたします。

どうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございます。

○総務部長

ありがとうございました。

それでは、本日の議題についてですが、お手元の次第をごらんください。

次第の4.議題と記載されています。その中の(2)教育委員会からの報告事項が2つございます。

このうち、①品川区立学校生徒の事故についてということは個人の秘密を保つために必要があると認められますので、品川区総合教育会議設置要綱第5条

に基づき非公開に、また、同第6条に基づき該当箇所の議事録については公表しないこととさせていただきたいと事務局では考えておりますが、ご異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○総務部長

ありがとうございます。異議なしと認めまして、先ほど申し上げた議題については、全ての日程の終了後に非公開で審議し、議事録も同様に非公開とさせていただきます。

それでは、議事に入りたいと思いますが、ここからは濱野区長を座長に会を進めさせていただきたいと存じます。濱野区長、よろしくお願いいたします。

○濱野区長

それでは、私が議事を進行させていただきます。よろしくどうぞお願いします。

早速ですが、議題に入らせていただきます。

議題の(1)品川区総合教育会議の運営についての①資料の公開について、事務局から説明願います。

○総務課長

それでは、資料の公開について私から説明をさせていただきたいと思います。

この会議の議事録につきましては、原則逐語録で作成いたしまして、区のホームページに掲載するとともに、総務課及び第3庁舎にございます区政資料コーナーで閲覧可能とし、公開をさせていただいているところでございます。ただし、現在のところ資料等の公開はしていないというものでございます。

しかしながら、区民の方から資料も含め公開を望む声が出てございますので、今後は政策形成過程の資料や区議会への説明前の資料を除きまして、要綱に抵触しない範囲で議事録と同様の形で資料の公開をしていきたいと考えております。

説明は以上でございます。

○濱野区長

ただいま説明のありました会議録及び資料の取り扱いにつきまして、何か意見がございましたらお願いをいたします。よろしゅうございますか。

それではそのような取り扱いとさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

次に、議題(2)教育委員会からの報告・協議事項についての②品川コミュニティ・スクールについて教育委員会から説明願います。指導課長。

○指導課長

それでは、品川コミュニティ・スクールについて説明いたします。お手元の資料2をごらんください。

品川コミュニティ・スクールの目的は、資料の左上にありますように、学校を核として、義務教育9年間で地域を支えること、2点目としまして、先ほど区長からお話がありましたように、教員の異動に影響を受けず、継続的な教育活動を展開すること、3点目としまして、学校、地域、家庭間の連携を強化することにあります。

表題に書きましたように、すなわち、地域とともに育てる9年間の義務教育、これこそがコミュニティ・スクールであります。

恐れ入りますが、資料の裏面をごらんください。品川コミュニティ・スクールの特徴は、校区教育協働委員会と学校支援地域本部から成ることです。この校区教育協働委員会と学校支援地域本部を、学校地域コーディネーターと呼ばれる区の非常勤職員がつなぐ役割を果たします。

まず、左側の校区教育協働委員会につきまして説明いたします。これは既存の校区外部評価委員会を発展させたものです。これまで各校が設置してきた校区外部評価委員会との違いは、これまでのメンバーである校長、学識経験者、地域住民、保護者、関係機関職員に学校地域コーディネーターを加えていること、さらに、卒業生もメンバーの候補者として加えていることです。また、委員は教育活動の評価はもとより、学校支援活動の企画、調整をしたり、学校運営の基本方針の承認をしたりするなど、学校の運営にさらに主体的に参加します。区費教職員の配置等への意見を述べることもできます。

続いて、右側の学校支援地域本部です。これまでも各学校ではボランティアや地域人材を活用した多くの取り組みを行ってきました。これらの取り組みを組織化し、スムーズかつ継続的に実施する体制づくりを目指すものが学校支援地域本部です。

学校地域コーディネーターは校区教育協働委員会からの求めに応じ、適切な学校支援ボランティアを派遣するなど、学校と地域をつなぐ役割を担います。

それでは1枚目にお戻りください。中段に標準的なスケジュールを示しておりますけれども、まず、平成28年度の実施校ですが、小学校6校、中学校3校、義務教育学校6校の15校がコミュニティ・スクールとなっております。

去る4月28日には校区教育協働委員会の委嘱式を行いました。

委員構成ですが、要綱で委員は12名まで、ただし義務教育学校は18名までと定めております。委員には町会長、PTA関係者、同窓会長などのほか、卒業生、大原小学校や荏原平塚学園では現役の大学生が委員に入っております。また、地域センターの所長などが任命されております。

コーディネーターですが、元PTA役員経験者が大多数ですけれども、PTA関係者の友人という例もございます。これは日野学園であります。

今年度、各校における校区教育協働委員会ですが、ここに示しましたように5回程度を予定しております。ただし、開催時期、また内容につきましては、

学校や地域の実態に応じて柔軟に進めております。

本日、7月12日現在での校区教育協働委員会の状況ですけれども、明日、7月13日に実施予定の伊藤学園以外は既に第1回の校区教育協働委員会を開催しております。多くの学校が6月中に行っております。1回目ということで統括指導主事、また担当の指導主事が参加し、校区外部評価委員会からの意向について具体的に説明を行っております。また、教育長も参加しております。今年度、各校区協働委員会に必ず1回以上は参加されると伺っています。

ここでの主な内容なんですけれども、まず、校長による学校経営方針の説明を行うとともに、例えば、自校の学力調査の結果や、児童・生徒、保護者アンケートの結果の報告を行ったり、また、学校が必要とするボランティアについて検討を行ったりしているところです。さあ、いよいよ始めようということで、どのようなボランティアが必要なのか、また学校としてどのような方向に進んでいこうと考えているのか、そういったことについて、最初の一步ということで第1回を行ったところが多いです。

1学期中につきましては、学校の実態を把握する機会にしようということをはほとんどの学校が考えておられて、まず、今後のプランニングについて考える機会と考えております。

また、右側の学校支援地域本部の状況ですけれども、始まったばかりというのが実情でして、学校支援ボランティアの募集をさあ始めましょうというところがほとんどです。早いところでは家庭科の授業のサポートですとか、職場体験の体験先の交渉、これは、これまでは副校長が学年と主体となって行ってきたものですけれども、こういったものを進めていきたいと思いますということで動いているようです。

また、放課後の英語学習教室、これもボランティアを募集し、そして実際に始めようということで動いていると聞いております。

今、行っている最中でございますけれども、町会、自治会等への説明も非常に重要だと考えております。品川コミュニティ・スクールの実施に際し、教育委員会としましては、町会、自治会に対し、丁寧な説明を行うよう心がけてまいりました。4月中旬に教育次長と庶務課長とともに、各連長さんに個別に事前説明に伺っています。その上で、4月25日から5月31日に行われた区政協力委員会で説明させていただくとともに、6月から7月にかけて、各町会長会議に伺って、品川コミュニティ・スクールにつきまして説明をしてきたところです。本日もこの後、大井第一の町会長会議に伺う予定でおります。

次に、今後の計画ですけれども、オレンジ色で示しましたが、平成29年度は16校追加し、31校に拡大、そして、平成30年度はさらに31校追加し、46校に拡大ということで、3年間で全校展開していくことを予定しております。

また、次年度以降の実施校でありますけれども、各校の準備状況や希望を踏まえて決定していきたいと考えております。

説明につきましては以上でございます。

○濱野区長

ありがとうございました。事務局からの説明が終わりました。

いろいろなご説明がありましたけれども、まずは校区教育協働委員会、こちらのほうから取り上げて議論を進めていきたいと思っておりますので、よろしく願います。

外部評価委員会というのがあって、それを校区教育協働委員会に移行していくということでもありますけれども、この辺の移行というのは共通理解はできつつあるんですか。どうですか。

○中島教育長

私のほうからいいですか。

簡単に言ってしまいますと、これまでの外部評価者制度は学校教育の評価の部分にかかわってPDCAを考えていましたが、今度は評価だけではなくて、例えば、学校運営ですとか、学校支援ですとか、いろいろな形を全て検討しながら回していくものとなります。

○濱野区長

実働部隊になるという。

○中島教育長

「実働部隊のパートも含めて、企画を出していきましょう」と、これまで、委員向けの説明会ですとか、コーディネーター向けの説明会、学校向けの説明会を重ねてきているので、そういった違いについての理解は大分進んでいっている感じがあります。

ただ、実際に、私のほうでも幾つか会議に出させていただいたんですけれども、その中ではやはり、これまでもう何回かやってきたところと、初めてやるところでは、大分、差が出てきているようです。

○濱野区長

教育長、どこかで一回はこの委員会に出ることになるんですか。

○中島教育長

はい。今年度は、もう終わったところもありますので、1回目に挨拶はなかなかできないんですけれども、必ず一回は顔を出したいと思っています。

ちょっとお時間をいただいて、その辺の様子を説明させていただいてもよろしいですか。

○濱野区長

どうぞ。今までの出たところの。

○中島教育長

具体的な学校名でも構わないと思いますので、富士見台中学校と伊藤小学校は合同の体制でやっております。だから、浜川モデルと同じような感じになっています。

これは第1回に出ることができまして、最初、ご挨拶させていただいた後に、やはり私ども、教育委員会に対する質問がすごく多かったですね。これはどうなるんですかと。もちろん、校長さんたちも一生懸命答えてくれました。教育委員会としても、「焦る必要はありません、まず、この学校、このエリアの特色にかかわっての内容を皆さんでゆっくりと考えていきましょう」と話をさせていただいて、とりあえずは、質問をして、委員の皆さんが、「ああ、そうなんだ」と、共通にわかっていくような時間を第1回では非常に長くとっていったような感じになります。

それから、先日は、豊葉の杜のほうに出させていただいて、これは第2回だったんですね。ですから、もう第1回は終わって、かなり具体的な話になってきています。ボランティア、どうやって募集しようとか、どういうところで学校を支援していけばいいのと。

町会長さんがお二人入っていらして、なかなか積極的な町会長さんなものですから、「いやあ、それは地域が支援するというよりも、本来、学校がやることじゃないの」とか、「具体的に言ってくれないと、何をどう支援していいかわからない」と。学校をどういった形で支援していけばいいかという、この校区教育協働委員会の学校支援にかかわっての話がどちらかというと中心でした。

その後、評価の話にもなったんですけど、そこでコーディネーターがまだ自分たちがどう動けばいいのかというのが十分にわかっていなくて、今の町会長さんたちの話を総合して、学校はあれもやって、これもやってと8項目ぐらい出してきたんです。しかし、それを全部コーディネーターがいきなりやって、地域に求めるというのはなかなかできる話でもないので、優先順位をつけて、特に、誰でもが入って支援できそうな内容にかかわって、まずはやっぺいこうじゃないのというようなところに落ちていきました。その中の一つに、地域のお店をめぐるような話があり、それはいつも学年の先生ですとか副校長が地域に話をして、これまで決めてきたんですが、そこにコーディネーターが事前に、この写真にもありましたけれども、交渉に入りました。その地域のことでしたので、お二人の会長さんも、よく知っているので、「ああ、じゃあ、今度、会うから話しておきましょう」という話になって、またそこが少しなめらかに進みそうな感じになっています。

最後、浜川エリアの浜中、浜小、鮫浜のところに行ったときには、事前打ち合わせとして、コーディネーター4人と、副校長3人の7人での打ち合わせの場面に入らせていただきました。やはり3年やっていますと、もう自分たちが何をやるのかというのがよくわかっていまして、1年間の流れを感じて、持っている情報をどういうふうに共有して、何をやっぺいこうかという、かなり具体的な話し合いができていたと思います。やはりステップが見えているなとい

うような感じがいたしました。

○濱野区長

今の話をお聞きすると、学校によって随分違って来るから、すごく、2番目のところだったか、豊葉の杜かな、えらく学校が前のめりになっているみたいな。

○中島教育長

そうですね。まだその辺の度合いというのが、学校側もわからないし、コーディネーターもわかっていません。

○濱野区長

最初は手探りでしょうね。

○中島教育長

そうですね。

○濱野区長

そうですね。わかりました。

この新しい校区教育協働委員会というもののこれからの可能性とか、あるいはこういう組織にどんなことを期待するかというようなことについて、ちょっとお話していただけるとありがたいと思いますが、いかがでしょうか。お願いします。

○菅谷委員長

今日、2つあって、一つは校区教育協働委員会というこのお話しで、もう一つあるんですが。

私、ネーミングがやっぱりちゃんと意味を持っているなと思うんですね。ちょっと長い言葉になったからわかりにくいんですが、私は縮めてやると、性格がぴったり出てくると思うんです。

まず一つの、この校区教育協働委員会というのは、校区の校と教育と委員会を一緒にしますと、学校の教育委員会なんです。学校における教育委員会。今、私たちは品川区における教育委員会をやっている立場におりますから、さまざまなことをやっているけど、じゃあ、学校の先生方、保護者、それから地域の方、教育委員会何をやっているか一言で言えないです。そのぐらいいろいろなことをやっている。だから、そのことがこの校区教育協働委員会でやらなきゃならないことになってくるので、なかなか見えないだろう、やっていく中で見えてくるところが多んじゃないかなと。狙いは、学校のため、その学校の校区のための教育委員会だと僕は解釈しているんです。

これはニュージーランドの教育委員会制度、そのままだと思っております。

というのは、私たちのような、こういう行政の中の教育委員会がありますよね。学校単位で教育委員会、そういう形が一つであると言うのかな。学校単位の教育委員会ということは地域の学校そのものなんです。地域と学校が一体化している、いわゆるコミュニティの学校だという発想があって、そこでできてくる。

そうすると、一つの校区教育協働委員会の落としどころと言うのですか、見え方は、僕はそこにあるんじゃないかなと。だから、そこに必要な方が皆さん、集まってくる。誰が入るかということじゃなくて、必要な方が入る。

その中で、今までの評価の委員会を含めても、やっぱり地域の力、町会の力というのが一番僕は地域を代表するものとしては大きいなと感じています。そこを捉えていかないと、地域の方に協働していかないといけないというふうにも思っています。だから、私も地域の町会の役員と一緒にやったりするので、そうすると、いつも学校はこうだよ、地域はこうだよと言うんじゃないくて、一緒なんですよ。本来は一緒じゃなきゃいけない。そういうところが具現化したものが、この校区教育協働委員会の品川版のコミュニティ・スクールの一番大きな精神なんじゃないかなと思う。

だから、ある意味で、いろいろなことが出てくるだろうけど、私ども教育委員会がやっていたことを、この学校では将来、10年、20年、30年と続くとすれば、そのところをやっていた上で、そこで評価という、そのように感じています。

○濱野区長

ありがとうございます。要するに、学校の中の教育委員会だという、そこを目指すんじゃないかということですね。ありがとうございます。

鈴木職務代理、いかがでしょう。

○鈴木委員長職務代理者

専門性を生かして学校にいい教育を与えるという趣旨で、校区教育協働委員、いろいろな方がおられるという。その中には、いろいろな社会的なバックグラウンドを持っている人が多いと思います。

例えば、会社の経営者だったら、組織の運営ということについてはプロだと思うんですよ。だから、そういう人たちが専門性を生かして意見を出していけば、学校の今までの気質が、今まで学校内部だけでやっていたものが、いろいろな人の意見を聞ける。あるいは、弁護士だ、税理士だ、司法書士だ、いろいろなそういう専門性がある人がいて、そういう意見を大事にすることもできるけれども、まず、校区教育協働委員になった方々のいろいろな役割、いろいろな方がいると思うので、そういう力に依拠すると、大分変わってくる気がするんです。

逆に、バックボーンを持った人だから、短時間に何かを統一した見解というのが、なかなかこう、我が意見というものを持っているので、その辺を長期的にゆっくり話を聞いたり、話し合う機会をつくらないと、短期に答えを出そう

とすると、ちょっと危険かなというおそれを感じます。皆さん、一国一城の主だと思うので。

○濱野区長

何かここで決めるという組織でもないのでしょうか。そういうところもあるのかな。

○中島教育長

ただ、次年度の教育課程をどう組んでいくかというような方針の部分は、校長からもここで示していただくという場面が出てくる。

○濱野区長

確かに、さっきの豊葉の杜なんかの例でいえば、お店の交渉なんかが、たしか、町会長の中に商店街の会長がいるからね、だから、そんなのあれでしょうし、その地区の会長は会社の経営者あたり。

○中島教育長

だから、必ずそういった職業の顔もお持ちだと思うんですね。

○濱野区長

おもしろいですよね。そういう意味で、学校の中に社会が入ってくるということですよ。ありがとうございます。

市川委員、いかがでしょうか。

○市川委員

今、鈴木先生がおっしゃったように、全く、常々私もそう思っているところでした。

従来の外部評価の場合は、全く、言い方が失礼かもわかりませんが、なあなあ的な。学校の応援団にはなっていましたけれども、具体的なことまで、ああやったらいいよ、こうやったらいいよというところまではなかったような対処でした。

要するに、強力な応援団という形で、何かあったら応援するからというぐらいの軽い気持ちであったような、そういう言い方が失礼かもわかりませんが、印象としてそんな感じがどこでも。もちろん、委員長になられる方は、大学の先生がおられたり、一定の方向性はあれしましたけれども、基本的にこれを行ったほうがいい、あれをやったほうがいいと積極的なあれがなかったように思います。

ただ、やはり、そういうことが、今まで、やってきたことが、学校運営については、学校も非常に理解がある、得られたと思います。

今、地域の方からぜひひとつ、人材を活用してもらいたい。今、経営者もい

ますし、いろいろなワークを持った方がたくさん。ただ、なかなか学校にかかわる機会の持ち方が、やっぱり地域の人たち、いろいろな意見を聞いたら、ああいう人がいるよ、こういう人がいるよということで、人材を出してもらえる。隠れた人材がたくさんおりますし、また、学校のためならやるよという方がたくさんおられますから、ぜひそういうことの人材を地域の方から出してもらいたいと思ってきました。

今まで、やっぱり、学校に対する、ただ単なる応援団じゃなくて、学校の経営に関することに非常に比重が高くなってくると思いますから、その辺も含めた人材をぜひ集めてもらいたいというような気もいたします。

○濱野区長

ありがとうございます。これは校長先生にとってはすごく刺激的な組織だろうね。

○市川委員

そうだと思いますね。

○中島教育長

頼もしい組織だと思います。

○菅谷委員長

結局、ブレーンとしての意見も出てくるでしょうし、そうでないときには対立構造になってくる。

○濱野区長

抵抗勢力になる。

富尾先生、いかがでしょうか。

○富尾委員

校区教育協働委員会の中には卒業生の方が入ったりですとか、若い意見など、かかわってくれているということで、学校そのものが自校のいいところをアピールしていくということが多いとは思いますが、いろいろな人が、いろいろな世代の人がかかわることによって、よさをアピールできる、発信できるような形になるといいなと思います。

○濱野区長

実際、若い人は結構入っていますよね。

○中島教育長

そうですね。先ほどちょっと紹介がありましたけれども、大学生とか。

○指導課長

はい、大学生が2名入っています。

○濱野区長

そうですか。確かに若い人が自分の在学生のころを思い出しながらいろいろなことをアドバイスするなんていうのはとてもいいかもしれないですね。あのとき、こうしてくれればよかったのにとか、何かそういうのを出してもらったら。

○中島教育長

なかなか痛い声があるかもしれませんね。

学校以外の方が、いや、今、学校はこういう課題に取り組んでいて、こういうところが困っているんだよというのを代弁していただけるような、そういう形で保護者の方ですとか、いろいろなところとのかかわりが持てると、これは对学校一本ではないので、非常に重層なかかわりになっていくと思います。

○濱野区長

そうですね。今、おっしゃったように、学校をアピールしてもらおうという意味では、学校の先生が自分の学校をアピールしてもなかなか本気で受け取ってくれないところがあるかもしれないけど、卒業生あたりが言ってくれれば、それは地域には説得力がある言葉になりますよね。

○中島教育長

あとは、入っていただいている町会長さんが町会の会などで、「いやいや、みんなの言っているのはちょっと違うよ、今、学校ではこういうふうなやり方をやろうとしているんだよ」みたいなことで助言していただけると……。

○濱野区長

それは大きいですね。

○中島教育長

すごく大きいと思います。

○濱野区長

いずれにしろ、今までのさっき、市川委員がおっしゃったように、評価するだけじゃなくて、実際に主体的に学校の運営にかかわってもらおうということを通して、学校づくりに社会が、地域が一緒になってやってもらえるという意味で、すごく意義は深いし、地域の人たちが学校に愛着を持ってもらえる、そういうきっかけにというか、そういう仕掛けになってくるんじゃないかと思います。

確かに、校区教育協働委員会って、何か通称って言って、これ、文科省がこういう言い方なんでしょう。

○中島教育長

国のほうは学校運営協議会というような言い方をしています。

○濱野区長

運営協になっちゃうと、ちょっと行き過ぎなような気がするんだけど。

○中島教育長

品川ではこういう言い方をしているんですが。

○濱野区長

そうですね。あんまり運営協議会になっちゃうと、ちょっと何か学校を乗っ取られちゃいそうな。それはちょっとあれだけれども。

○中島教育長

協働委員会でもいいんですけれども。

○濱野区長

ありがとうございました。

一方で、この学校支援地域本部というのがもう一つの役割になっているわけですが、これについてはまだボランティアを募集し始めたという段階になっているんですか。

○中島教育長

そうですね。これもちょっと私のほうから、それぞれ、見てきているところでは、そもそも、安全ですとか、図書館ですとか、もういろいろな形で地域の方がボランティアに入っているという実態、品川区内はほとんどの学校でそういう体制を組んでいるんですね。でも、それはそれぞれパートごとをお願いして、毎年お願いして構築してきているものです。

それを、今度、学校支援地域本部という一つの組織の中で、継続的に、計画的に取り組むことによって、コーディネーターが動くわけですが、これは学校を支える、来年も再来年も続いていく、持続可能な力になっていくんじゃないかなと思っています。

実際、昨日の豊葉でも、やっぱりボランティアがなかなか集まらないんだという話がコーディネーターから出されて、あそこには、協働委員会の中に二葉幼稚園の園長さんも入っているんですね。幼稚園では、そういうボランティアはないんですかという話になりまして、「幼稚園でもボランティアのお母さんもいっぱい来ますよ。就学前の年長さんの保護者の方に声をかけて、学校ボランティアにも入っていただいたらどうなんですかね」という話になって、

あ、それは可能性がありますねということで、一気にボランティアの募集体制に光が見えてきたようなところもありました。

○濱野区長

いわゆるママ友ってやつね。

○中島教育長

新しいネットワークがそこに。

○濱野区長

ママ友を引っ張り出してくると、いろいろなパワーが出てくると思いますので。

これね、学校支援地域本部って、これは純粋に地域の人たちにしてもらう。こういう民間会社があるんですよね。こういうことをやる会社がある。学校の遠足の引率だとか、これ、僕のところに売り込みに来た。

○菅谷委員長

人材派遣ということで。

○濱野区長

要するにそういうような話ですよ。これ、全部、ほとんどこういう項目。こういう項目を私どもが引き受けますという会社。

○鈴木委員長職務代理者

ボランティアじゃなく。

○濱野区長

費用を出してという感じですね。

会社と、それから、もう一つは、全くNPOみたいなあれで、これ、ただでやりますから、学校の校庭を使わせてください。学校の校庭を使わせてもらって収入を得ますから、これについてはお金は要りませんというそういう会社というか、NPO。それじゃ、何か情けない話なので。

これが実際に稼動したらすばらしいなと思うんだけど。見返してやりたいなと思うんだけど。「大丈夫です、品川、こういうのがありますから」って。

○中島教育長

もともと素地ができていますから、新たに募集をするというケースもあるんですけども、これまでの資産をうまくソフトランディングさせていければなと思っています。

○濱野区長

そうですね。これについて、支援……、これも言いにくいな、学校支援地域本部について、菅谷委員、いかがでしょうか。

○菅谷委員長

これもね、皆さん、それぞれ言いにくい言葉。僕はいつもこれ、また短くして。これ、学校の支援と地域の支援なんです。両方入っていないと私はいけないなと思っています。

今、論議の中で出てきて、これまでやってきたのは、学校が地域の方に支援していただいているということが、今、素案に乗っていて、それをよくやっているねという話なんです。

これからは、やっぱり地域の学校となれば、学校が地域を支援していく、その場面もあってもいいんじゃないか。それがもっと出てこない、ほんとうの意味での地域支援本部の仕事にならないかなという感じがするんです。

だから、町会が、子供を来させてくれない、もっと学校協力してよという話が結構ありますので。そのことを、やっぱりコーディネーターはきちんとやるということが、そういうこともできるんじゃないか。お互いに支援し合うということが、この本部の本来の一番の形だと思っています。

本部という形を除けば、学校支援であり、地域の支援である、両方の支援をやっていく、そのための交わりであると思うんですね。

地域の町会というのはすごく、地域の単位というのは非常に大事な単位ですから、それをうまく使いながら、学校の中でうまくやっていく、そういうことが、この辺では大事かなと思います。

いろいろなことをやってきたのですが、最終的には片一方にならない、一方通行にならないということがほんとうに私は大事だと思います。

○濱野区長

ありがとうございます。これもほんとうに言いにくい言葉で、実際には、地域の人たちはどう呼んでいるんだろう。

○中島教育長

まだなかなかなじんではないですね。

こちらに関しては、自分たちの支援本部ですから、何かニックネームをぜひつけたいという話だったんですが。

○濱野区長

勝手にね。

○菅谷委員長

自由に。

○中島教育長

そうなんです。浜川エリアなんかも龍馬の会でいいんじゃないですかという話を3年前からしているんですけど、やっと生徒に名前を募集しようというところまで、今、来ているような状況なんですけど。

愛称を持つと、そこから今度、そろいのTシャツをつくったりとか、いろいろな動きがまた発展していく可能性があるかなと。

○濱野区長

最近のおやじの会。

○中島教育長

ああいうのも入ってもらえますし。

○濱野区長

おやじだとおやじしか入れないけど。

○中島教育長

一応、その一部会がおやじの会みたいな感じになるのかもしれませんが。

○濱野区長

鈴木職務代理はいかがですか。

○鈴木委員長職務代理者

私は一番あるのは、卒業生を有効にボランティア活動することはできないかということ。

例えば、小学校6年生が毎年5年生に指導して、太鼓の会をつくり、太鼓の指導をしている。卒業したら、5年生が6年生になって、新しい5年生に指導するという形で、そういう形で終わっちゃうおそれがあるので、卒業しても太鼓の指導を、できる子は、どんどん組織化して、1年上も2年上も3年上も4年上も登録できるような形にして、卒業生が入っていける、同窓生が入っていける、あるいは、中学校の部活でも、任意に部活に指導に来る先輩はいると思うので、それを今までは任意に来てもらっているんですけど、そうではなくて、学校支援地域本部のボランティアとして……。

○中島教育長

ーパートとしてね。

○鈴木委員長職務代理者

毎年、蓄積していきたい。そうすると、子供たちにとっても、我が母校だし、我が母校の何かをやっていたサークル、部活を発展させるのは喜びだろうし、

そういうふうに学校に対する愛着心も持てるんじゃないですか。

ただ、それぞれ、高校、大学に行って、忙しい思いをしているから、そう簡単に人数が集まるとは思わないんですけど、でも、そういうのを組織化して、ボランティアに登録していくという形で、それを、今度、新しい卒業生を選任するんだよとか、あるいは、学校でもそういう人たちを何人か選任して、自分たちが選んだほうがいいのかもしれないけど、それはいろいろなやり方でその責任を果たしたくなるような環境をつくっていったら、長い目で、どんどん、どんどん増えていくんじゃないか。

それが、うまく行くかどうか、なかなか、今まで同窓会で、そんな若いときからうまく行っている同窓会は、あまりないですけども、でも、可能性としてはおもしろいんじゃないかな。

○濱野区長

確かに、そういう、特技というか、何か自分の好きなことを通して学校とかかわり続けるといえることができたなら、それはいいですね。もちろん、だから、10人いて、10人が全員にはならないかもしれないけど、3人ぐらいは。

○中島教育長

中にはいる可能性がありますよね、そういうふうになりたいという人がね。

○濱野区長

そうですね。

○中島教育長

それは、マッチングの話だろうと思うんですね。そこをコーディネーターの人がうまく募集して、登録してもらって、フィードすれば、学校としても助かる部分があると思いますし。

○濱野区長

そうですね。卒業したらそれでもう切れちゃうというのではちょっともないよね。

○鈴木委員長職務代理者

子供たちにとってもいいこと。自分たちの好きなことを教えられるという。自分たちもやったりできるわけで。

○濱野区長

そうね。やっぱり子供なりにちょっといばってみたり。

○鈴木委員長職務代理者
指導者になってみたりね。

○濱野区長
ありがとうございます。そういう人材をこの中で抱えていけたら広がりが出てくるような気がしますね。
市川委員、感想を。

○市川委員
青少年委員会委員、会長もかつてやっておりましたけれども、ジュニアリーダーですね。卒業した子たちが手伝うのが非常にない。ないというより、その存在も知らない。

だから、私どもはやっていたから、地域事業には必ず4人でも5人でも来てもらって、その子たちにあるいは指導してもらおう。

非常に、毎年あれだけ卒業して行って、いろいろお手伝いしたいという子供たちがいて、活用されていないというのが実情です。

ですから、すぐにでもそういう人たちがいますから、ぜひ活用してもらいたい。こういうあれなので、今までこういうのができませんでしたから、一部の人が来ていません。今、役立ちたいというあれがそういうところの子たちが中心にできていますね。卒業生たくさんいるんですよ。

我々も事業で、例えば、バスで行けば、バスの中でバスレクを子供たちが楽しくやっているということもあります。ぜひひとつそれは頭に入れて活用してもらいたい。

青少年委員会そのものにあれだけ年間予算を出して、あれだけ事業をやっていて、子供たちがそういう実体験をやって、色々キャンプとか、いろいろなことを通じてやっていながら、終わった後、手伝いたいという子供たちがたくさんいるのに活用できていないという実情がありますから。

○濱野区長
もったいない話ですよ。

○市川委員
もったいないですよ。そういうすごいお宝がありますから、ぜひそれを使ってもらいたいなというのが一つ。

もう一つ、先ほどのおやじの会って、私、おやじの会のあるPTAって非常に活気があります。非常にあります。その中からいろいろな力のあるお父さんがいますから、それは先ほども話がありましたけど、ぜひそういう。PTAでなかなか、おやじの会をつくれるかどうかという、そういう機会が、できるところがあったら、どんどん進めて。

おやじの会というのは非常に学校にもプレッシャーがかかるんですよ。いろ

いろな面でね。力加減、やっぱりお母さんと全く違いますから、そういった面ではぜひ、おやじの会をPTAのほうにある程度つくっていくようなことも考えていいのかなという感じが。特にお父さんというのは学校に対するかかわりが一番少ない。PTAはお母さんばかりですから。

○濱野区長

そう、任せっきりというかね。

○市川委員

任せっきりですから。私どもがやっていたときも当時は。

○中島教育長

生活指導。

○市川委員

高度経済成長のときには、おやじさんが出てくる時間がないというのがありましたけど、今はそうじゃなくて、そういうお父さんが学校に関心があるのがありますから、そういうPTAにも投げかけて、つくれるようになったら大きな力になる。

ただ、ジュニアリーダーの卒業生もうまく、あれだけ卵がいるんですよ。金の卵ですから、ぜひ使って。

○中島教育長

これは事務局のほうに早速、コンタクトするように声をかけます。

○濱野区長

ありがとうございます。ほんとうにそういう人材がたくさんいるということは心強いので、ぜひ活用していければと思います。

冨尾委員、いかがでしょうか。

○冨尾委員

今、皆さんたちのお話を聞いていて、今後、サポーターが増えるんだなと思います。子育てをする上で、地域も一緒になって子供を見守ってくれるし。子供も親も、負担と言っては何ですけれども、保護者が保護者としての仕事じゃないですけど、役割を十分に果たすことができるようになります。

今、PTA、一生懸命活動されていると思うんですけど、やっぱりPTAの中だけだったり、そうすると、お互い、子供を持っている者同士が付き合いという感じで、何か、もう、今、あなたのお子さん、走ってますよみたいな連絡が来たりとか、そういう状況になってしまうところを、もっとゆったりと地域を含めて、いろいろな形で支援してくださると、私たちも支援ということな

のかなと。

○濱野区長

なるほど。確かに、やっぱり皆さん、忙しい中でお手伝いいただくということは、上手にやらないと、かえってストレスの塊を与えるみたいなことになりかねないですね。

学校というのが先生だけでは成り立ちいかないということ。手が足りないから助けてもらうということもありますけれども、それだけではなくて、地域との交流というか、そういう意味でもこの学校支援地域本部、そういう機能も果たしていくんじゃないかと思うので、これも大事に育てていただければと思います。

ほんとうは、こういうところへ出ていってお手伝いをするというのが、地域の人にとって楽しみになるようなことになれば一番いいと思うんだけど、なかなか難しいことだと思いますけれども、ぜひそういう方向を目指して進んでいただければと思います。ありがとうございます。

今日はこのコミュニティ・スクールの2つの要素である校区教育協働委員会と学校支援地域本部についてさまざま意見をいただきました。こうした意見を大事にしながら、さらに充実したコミュニティ・スクールに進んでいただければありがたいと思います。

今までは教育委員会からの協議事項であります。ほかに。

教育委員会から何か新たに協議事項ありますか。特にないですか。わかりました。

次に、(3) その他の①品川区制70周年記念事業について、事務局から説明を願います。

○総務課長

それでは総務課よりご説明させていただきます。

資料3をごらんください。品川区におきましては、平成29年3月で区制70周年を迎えます。ここの事業の目的に書いてございますように、品川区は昭和22年3月15日に、旧品川区と旧荏原区が統合しまして誕生したものでございます。そして、29年3月に70周年を迎えるということでございまして、品川区の歩んできた歴史を改めて区民の皆様にご覧いただき、愛着を持っていただけるよう広く区民に周知し、区全体で祝っていきたくと考えているところでございます。

Ⅱ. 事業内容等をごらんください。

まず、1番目に記念式典を平成29年3月21日の火曜日にきゅりあん大ホール・イベントホールで行いたいと考えているところでございます。詳細については、今、検討しているところでございますが、団体感謝状贈呈式や、講演会、コンサート等を予定してございます。

その他の事業といたしまして、しながわ百景のリニューアル、また、3番に

ありますように、しながわ環境ミュージカルを開催するということや、4番にありますように、品川区制70周年記念品のオリジナルフレームの切手を企画し、販売を行っていくところでございます。

また、5番にありますように、PR事業としましては、「広報しながわ」で特集号を組みます。また、(2)にありますように、28年9月から来年の29年9月までを70周年の記念期間といたしまして、既存の事業等も含めまして、70周年記念という冠をつけてイベントを行っていきたいと考えております。

裏面にお移りいただきまして、品川区制の70年間の歩みを振り返るということで、(3)にありますように、パネル展をそれぞれの年代を区切って展開をしていきたいと思っております。

また、(4)ではラッピングバスを区内で走らせていきたいと。PRのため区内にラッピングバスを走らせたり、のぼり旗を掲出したり、リーフレットを配布したりしまして、この70周年というものを区民の皆様、地域の皆様と一緒に祝いをしていきたいと考えてございますので、この場をおかりして、70周年の記念事業についてご紹介をさせていただきました。

資料の説明は以上でございます。

○濱野区長

今、説明がありましたように、70周年ということでもありますので、学校のほうでも、例えば、市民科の授業で取り上げるとか、卒業式等のイベントにおける冠、70周年というような冠をつけていただくような、そういうご協力をいただければありがたいと思っておりますので、よろしく願いをいたします。

それでは、先ほど決定しましたとおり、これより非公開の会議ということで進めさせていただきたいと思っております。

【-----以下、非公開の会議-----】

※品川区総合教育会議設置要綱第5条に基づき、個人の秘密を保つため必要があると認められるので、非公開の会議となった。また、同第6条に基づき当該部分の議事録も非公開とする。

— 了 —